

令和 6 年度特別の教育課程の実施状況自己評価表（西大和学園中学校高等学校）

目指す学校像	磨かれた「知」を備え、豊かな人間性を持ち、世界を舞台に活躍する次世代を担うリーダーを育成する。
重点目標	1.英語を含む外国語の4技能（聞く・読む・話す・書く）を習得。
	2.中学3年次（アメリカグローバル研修プログラム）、高校1年次（海外探究プログラム）等の実践の場で4技能を使用するために必要な5つの力（主体性・協同性・思考力・判断力・表現力）を習得。
	3.グローバルな視野を広げ、世界で起きていることを自身に置き換え行動することのできる3つの力（多様性・課題発見力・課題解決力）の習得。

学校評価					
年度目標				年度評価	
No	課題項目	具体的な方策		課題項目の達成状況	自己評価
1	4技能の習得	英語の授業	中学1年次から授業時間を週5～6時間確保し、中学校学習指導要領に基づき、中学英文法の指導を中心に行っている。又、音声活動も重視しており、フォニックスや発音・リスニングの指導を随時取り入れている。中学2年次には、早期よりライティングの活動を取り入れ、既習文法をベースに自らの意見を述べる機会を積極的に設ける。また、中学2・3年次には2週間に1回、(株)コスモビアの「eステ」を用いたオンラインでの多読多聴の時間を設け、辞書を用いずにアメリカの小学生向けに書かれた洋書講読を行うことで、速読力・類推力を養う。加えて、講読中に気になった表現や印象に残ったフレーズから、検定教科書や入試問題演習では養われない実用英語に触れる機会を増やしている。	4技能をバランスよく磨くこと。同時に初期はまずは英語が「書ける」「読める」を重視した。このことで、リスニングへのハードルが下がった。	B
		イマージョン	中学3カ年と高校編入1年次に体育、音楽の実技教科をオールイングリッシュで実施し、実際に体を動かしたり、実技演習を進めていくなかで自然と語彙・表現を理解し、その習得を目指す。また(株)ISAと提携し、週1～2時間ネイティブ講師と本校教員のIT授業にて(Global Competence Program)を実施。グローバル社会で生き抜くスキルの習得とともに4技能の習得も目指す。		
2	主体性	英語の授業	入学段階での英語習得度に差があるため、適宜自主課題や任意参加の講座を数多く設けることで、授業中はもちろん、授業外でも自らのニーズに合わせて英語力を総合的に伸ばしていく契機を用意する。	年々英語への意識の低下が見られる。動機付けの点において小学校時の英語学習への後ろ向きな印象が要因と見られる。生徒の特性を鑑みて、親しみやすさを第一目標とすべきである。	B
		オンライン英会話	中学2・3年次に週1時間、オンライン上でネイティブスピーカーとの1：1のやりとりを実施し、自ら進んで会話をつなぐことでリスニング、スピーキングの能力伸長を目指す。		
		イマージョン	必ず毎月1回は、自分の意見をクラス全体で語る場を設けている。		
	思考力	英語の授業	検定教科書や英字新聞の読解、英語プレゼンテーション動画を視聴し、国内にとどまらず、国際的な諸問題について英語で情報を収集し理解を目指す。	肯定的な意見が全学年で約85～90%であった。個人やグループで考えをまとめる作業に対し、その達成を生徒が高く実感することができたと考ええる。	A
		英語の授業	年度途中から1学年上の題材を扱い、より抽象度の高いトピックに関する知見を学ぶことで、より批判的に物事をとらえる力を醸成する。		
	判断力	イマージョン	授業でネイティブスピーカーにより提示される課題について、自分の考えをまとめ、一つの意見を提示するトレーニングを行う。	「1学年上」のカリキュラムを徹底し、大学受験のみならず海外大学進学を意識したカリキュラムとなった。	B
		英語の授業	中学3年次のアメリカグローバル研修プログラムに向けて、アメリカ合衆国についてまとめたレポートやホストファミリーへの自己紹介文の作成を英語で行い、教員の添削をはじめとした指導を通じて、正確かつ洗練された表現を会得する。		
	表現力	イマージョン	中学1・2年次は、身近なテーマをもとにグループワークや発表・プレゼンテーション等を通じて、自身の考えを相手に伝えるための技法を習得する。また、中学3年次のアメリカグローバル研修プログラムに向けて、ホストファミリーや現地校での会話、ディスカッションを想定したペアワーク及びグループワークを実践する。	アメリカでの約2週間のホームステイは英語で伝えようという意欲の向上が見られた。帰国後も現地での経験を最大限に生かそうと自主的に取り組む姿勢が見られた。	B
		オンライン英会話	ネイティブスピーカーとの1：1の英会話の中で、自身の言いたいことを伝える機会を多く設ける。		
		英語の授業	中学3年次のアメリカ、高校1年時のアジアへの修学旅行が再開となり、世界の諸問題を考える契機となった。		
3	多様性	オンライン英会話 イマージョン	毎回異なるネイティブスピーカーが担当し、馴れ合いにならず、常に新しい視点を提供する。また、イマージョン授業では、正解が1つに定まらない社会問題を扱い、自分の意見以外のものにも耳を傾ける。	全体的に教材のレベルを上げた。英語力の面でうまく自身の考えを表現できない場面も見られたが、自身の考え以外のものに触れるだけでなく考える契機となった。	B
	課題発見力		多読やオンライン英会話において、異文化にふれることで、自身のアイデンティティを見つめ始めるきっかけをもち、日々の活動においてプレゼンテーションを授業の形として取り入れることで、他者とコミュニケーションを取りながら、歴史や分野、社会情勢に興味関心をもつ機会を得る。中学3年次、高校1年次に参加可能なエンパワメントプログラムにおいても国際人としてステップアップするために必要な考え方を得る機会を設ける。	中学3年次のアメリカ、高校1年時のアジアへの修学旅行が再開となり、世界の諸問題を考える契機となった。	B
	課題解決力		授業中において自身の見つけた課題をグループで共有し、ディスカッションを通して自身が体験したことや他者の意見から自身の考えをまとめ、全体での発表の機会を設ける。	(株)ISAによるGCP(グローバルコンピテンシープログラム)により、コミュニケーション能力、思考方式、異文化理解、リーダーシップ、そして社会貢献等を磨く機会を提供できた。	B

達成度	A	ほぼ達成（80％）
	B	概ね達成（60％以上）
	C	変化の兆し（40％以上）
	D	不十分（40％未満）

学校関係者評価	
意見・要望など	
・オンライン英会話については、実施時期・形態を見直し現行の中学2・3年次にとどまらないものにしていきたい。 ・イマージョン教育は、日常の中の非日常を得ることが出来るという点でも、生徒の刺激や成長に欠かせないが、授業時間数の影響より本来であればより多くの時間を割き、集中的に行うべきであるが、徹底できてない。 ・様々な英語の取り組みを刈り込むことで、原点回帰として進学校としての要素をまずは強化していきたい。 ・中学入試において英語重視型入試での入学生徒への対応が十分とは言えない。イマージョン教育をはじめとするオールイングリッシュの授業や課外活動なども実施してはいるが、中学1年生の4月より英語の学習を始めた生徒と同じカリキュラムであることが実情である。中学段階において、選択型や能力別授業というのは難しいとは思われるが、彼らへの柔軟な対応が具体的に構築されていくことが求められる。 ・海外大学（主に英語圏）への進学への対応した部署が始動しているが、英語力の点において本校の英語学習とどのような相乗効果が生まれるのか、相乗効果を生むためにはどのような方策が必要なのかを長期的な視点で検討していきたい。	
その他の取り組み	
1：模擬国連 対象：高校1年生・高校2年生 2：次世代リーダー養成プログラム 対象：高校1年生・高校2年生 3：エンパワメントプログラム 対象：中学3年生・高校1年生 4：アクションイノベーションプログラム 対象：高校1年生・高校2年生	